

目次

病んだ身体と「特異にして共通なる個」

——萩原朔太郎『月に吠える』の編成の問題

興津さくら 2

平林たい子「治療室にて」論 —— 立ち上がれない身体を視座として

舘田 海光 16

明治末年におけるポスト自然主義言説のゆくえ —— 白樺派の台頭まで

松本 和也 31

居初つなど軍記物語 —— 新出『平家物語』写本・往来物・物語草子

宮腰 直人 45

語られる「群集」 —— 前田河広一郎「三等船客」論

山口 幹太 57

新刊紹介

徐禎完／鈴木彰編『文化権力と日本の近代

—— 伝統と正当性、その創造と統制・隠滅 ——』

今橋 萌 71

小平麻衣子・井原あや・尾崎名津子・徳永夏子編

『サンリオ出版大全 —— 教養・メルヘン・SF文庫』

松本 拓真 73

書評

瀧田 浩著『武者小路実篤文学の構造と同時代状況』

石井 花奈 76

彙報・編集後記